

電子メール入門

情報処理センター:江藤博文

平成7年 3月 7日

1 はじめに

1.1 電子メールの概要

電子メール (electric mail) とは、いわゆる郵政省のメール (mail) とは違い、コンピュータ及びネットワークを介してやりとりを行なう文書及びそのシステムのことをいいます。最近では学会の申し込み、講習会への参加に電子メールが使われています。

1.2 電子メールのアドレス

電子メールでは郵政省のメールと同様にアドレスが存在します。情報処理センターにアカウントを持っているユーザでは

`user@cc.saga-u.ac.jp`

となります。ここで、@以下をドメインと呼び、それぞれピリオドで区切られた単語はそれぞれ以下の意味を持っています。

- user
当然、使っている人の login 名です。この後にはピリオドではなく、@ を使います。これにより、マシンではなくユーザと判断するのです。
- cc
情報処理センターのドメインです。calculation center なのかどうかは良く知りません。他には ip:情報科学科、ec:電子工学科などがあります。
- saga-u
佐賀大学のドメインです。他には kyushu-u:九州大学、oita-u:大分大学などがあります。
- ac
教育機関のドメインです。他には co:企業、go:政府機関などがあります
- jp
日本のドメインです。ここには国名が入りますが、アメリカは例外としてその組織が属する種類が入ります。

このアドレスは同じマシンのユーザにメールを出す以外は全てフルアドレスで記述して下さい。同じマシンのユーザであればユーザ名だけで届けられます。しかし、間違いを無くするためにもフルアドレスを記述するようにして下さい。

1.3 佐賀大学電子メールシステム

佐賀大学の情報処理センターのマシンではメールシステムとして、mh-e を使用しています。mh-e の特徴は

- a. emacs の上で操作が出来る
- b. MH 機能によりフォルダによる分類が可能
- c. メールを書く際に他の editor を起動をしなくても良い

等です。

1.4 電子メールの注意事項

メールを実際に出す際には、次のことに注意して下さい。

- 送り先のメールアドレスを間違えないメールアドレスはたとえ1字でも間違えると送り先には届かないばかりか、途中を経由するコンピュータ及び回線に無駄な負荷をかけます。「アドレスはよく覚えてないけど、確かこんなアドレスだったからこれでだしてみよう。」などと言うことは絶対にやめて下さい。簡単なチェックは出来ます。
- 内容の秘密が守られるとは限らない。送り先のアドレスを間違えると、当然エラーとなるか、たまたま間違えたアドレスのユーザがいてその人宛に届いてしまいます。エラーの場合はシステム管理者宛にもエラーメールが届きます。どうしても内容を読まれたくない場合は自分で暗号化するか、郵政省メールで届ける方が良いでしょう。

1.5 このテキストでの注意事項

このテキストで文字表記の注意事項を示します。

- C-a
Ctrl キーを押しながら a を押す。
- M-a
ESC キーを押した後で、a を押す。
- {SPACE key}
SPACE キーを押す。
- ↓
Return キーを押す。

なお、文章中でのコマンドは、"a"のようにダブルコーテーションで囲んでいます。

2 mh-e によるメールの操作

2.0 はじめに

初めてメールを使用する場合は以下のコマンドをまず入力して下さい。

```
user1@hostname2[1] inc ↓
```

これにより mh-e を使用できる環境が整います。次回からは以下のコマンド入力から始めて下さい。

2.1 起動方法

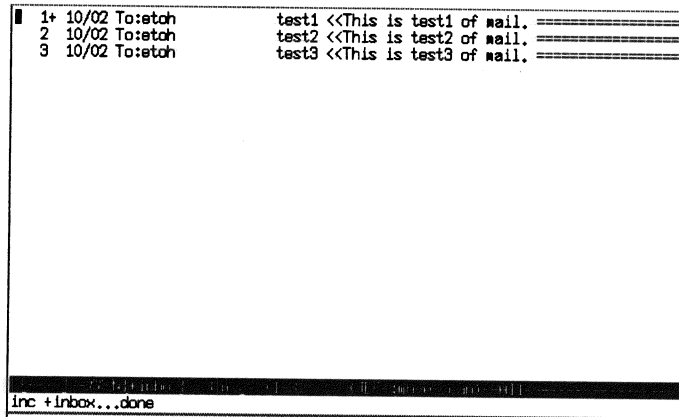
コマンドラインから

```
user@hostname[1] mhe ↓
```

と入力すれば、emacs が立ち上がり、mh-e のリードモード(read mode)に入ります。すでに emacs を起動している時は

```
M-x mh-rmail ↓
```

と入力すれば同じことです。



```
1+ 10/02 To:atch          test1 <<This is test1 of mail. =====
2  10/02 To:atch          test2 <<This is test2 of mail. =====
3  10/02 To:atch          test3 <<This is test3 of mail. =====

inc +Inbox...done
```

¹login名です
²マシン名です

2.2 メールを読む

コマンド	内容
.	カーソルのある行のメールを読む
{SPACE key}	メール内容の次のページを見る
{DEL key}	メール内容の前のページを見る
n	カーソルを次の行に移動
p	カーソルを前の行に移動
i	新着メールを取り込む
j	指定番号のメール行に移動

リードモードに入った時にはメールが来ていれば、メールが取り込まれます。リードモードに入った時は、inbox というフォルダを見にいきます。inbox は初期状態のフォルダで、メールを取り込んだ時には必ずこのフォルダに入ります。フォルダについての詳しいことは後の章で説明します。

2.2.1 ”.” カーソルのある行のメールを読む

カーソルのある行のメールを読みたい場合は、

を入力します。カーソルのあるメール番号のメールが表示されます。

```
1+ 10/02 To:etoh          test1 <This is test1 of mail.
2 10/02 To:etoh          test2 <This is test2 of mail.
3 10/02 To:etoh          test3 <This is test3 of mail.
-----
To: etoh
Subject: test1
Date: Sun, 02 Oct 1994 16:05:15 +0900
From: Hirofumi ETO <etoh>

This is test1 of mail.
-----
佐賀大学情報処理センター
江藤 博文  etoh
電話 0952-24-5191 内線 2594 事務室内線 2592
FAX 0952-26-6096
*****
-----NI:etoh--+Subco: +inbox/1 (EE:Fundamer.ta1)---Bo-----
```

2.2.2 ”{SPACE key}” メールの内容の次のページを読む

もし、届いたメールが1画面に入らない場合は

{SPACE key}

を入力することにより1画面スクロールアップして、続きを見ることが来ます。

2.2.3 ”{DEL key}” メールの内容の前のページを読む。

{SPACE key} により見えなくなった以前の内容を見るためのものです。

{DEL key}

と入力することにより1画面分スクロールダウンして前の内容が見れます。

2.2.4 ”n” カーソルを次の行に移動 (next)

カーソルを次の行のメール番号に移動する場合は

n

と入力します。一覧表示の場合はカーソルが移動するだけですが、メールの中身を表示している時はカーソルが移動すると同時に移動したメール番号のメールが表示されます。

2.2.5 "p" カーソルの前の行のメールを読む (previous)

カーソルを前の行のメール番号に移動する場合は

p

と入力します。一覧表示の場合はカーソルが移動するだけですが、メールの中身を表示している時はカーソルが移動すると同時に移動したメール番号のメールが表示されます。

2.2.6 "i" 新着メールを取り込む (inc)

作業をしている間に新着のメッセージが来ていないかどうかをチェックする場合は

i

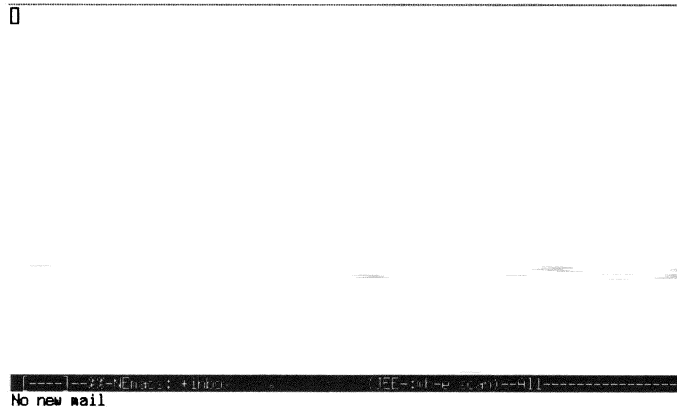
と入力します。もし、新着のメッセージがあれば、

inc +inbox...done

と言うメッセージが表示され、立ち上げた時と同様に inbox フォルダに取り込まれます。なければ

No new mail

と言うメッセージが表示されます。



2.2.7 "j" 指定番号のメールを読む (jump)

指定のメール番号に直接カーソルを移動させたい場合は

j

を入力します。

Goto message:

とメッセージが表示され、メール番号を聞いてきます。見たいメール番号を入力するとその番号のメールが表示されます。これも"n","p"と同様で、一覧表示の場合はカーソルが移動するだけですが、メールの中身を表示している時はカーソルが移動すると同時に移動したメール番号のメールが表示されます。

2.3 メールを出す

コマンド	内容
s	SENDモードに入る (リードモードから)
M-x mh-smail	SENDモードに入る (通常 emacs から)
C-c C-s	サインをつける
C-c C-w	宛先をチェックする
C-c C-c	メールを出す

2.3.1 "s" or "M-x mh-smail" SENDモード (send mode)

すでにリードモードに入っている時には

s

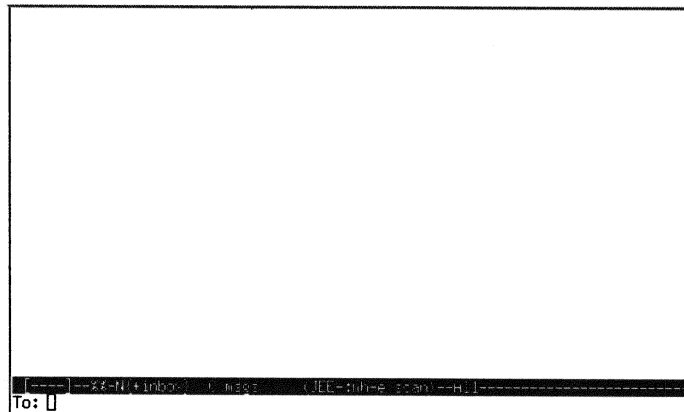
と入力するとSENDモード (send mode) に入ります。emacs だけを立ち上げている場合は

M-x mh-smail ↓

と入力すれば同じです。

To:

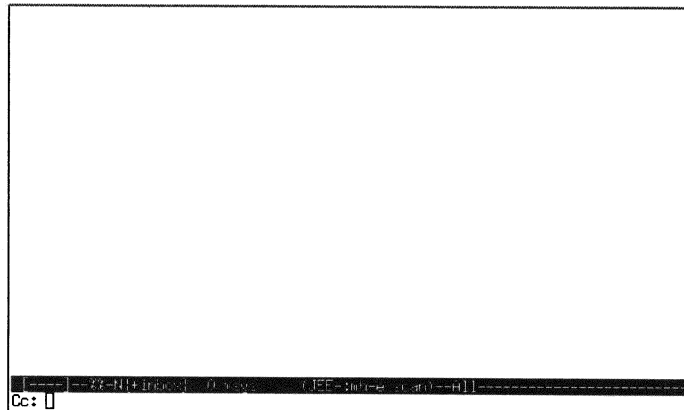
に相手先のアドレスを入力します。



The screenshot shows the Emacs SEND mode interface. At the bottom, there is a dark bar with the text "To: " followed by a cursor. The rest of the window is empty, indicating that the user is about to enter the recipient's address.

Cc:

と表示します。これは カーボンコピー (Carbon Copy) の略で、同じようにアドレスを書くのですが、自分でコピーをとっておきたいとか、参考にしてもらいたい人のアドレスを書きます。



The screenshot shows the Emacs SEND mode interface. At the bottom, there is a dark bar with the text "Cc: " followed by a cursor. The rest of the window is empty, indicating that the user is about to enter the addresses of carbon copies.

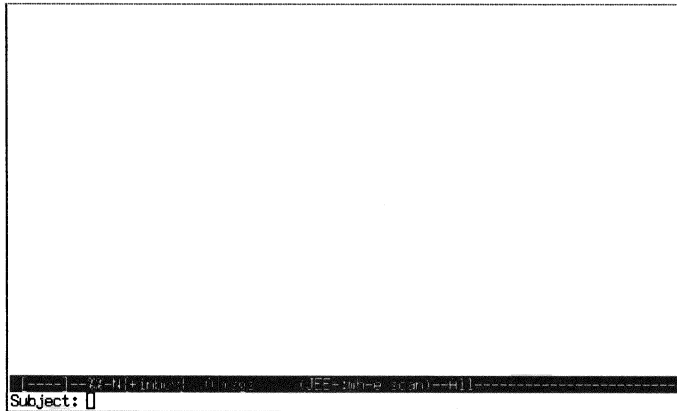
この、"To:" や "Cc:" は複数書くことが可能です。例えば

To: etoh@cc.saga-u.ac.jp, onot@cc.saga-u.ac.jp

で、アドレスとアドレスの間は ”,” で区切ります。続けて書くとエラーになりますので注意して下さい。

Subject:

と表示します。ここに簡単なメールの内容を書きます。決して日本語は使用しないで下さい。マシンによっては日本語の Subject を受け付けないところもあります。また、日本語を使う場合は特殊な操作が必要ですのでここでは説明しません。



Subject まで入力し終わると、画面が2つに分かれ下の画面でメールの編集を行ないます。

以上をメールのヘッダと言い、本文はここより下に書きます決してここを編集してはいけません。ここはヘッダと本文を区別しているのです。



2.3.2 "C-c C-s" サインをつける

本文を書き終えた後で

C-c C-s

を入力すると、.signature ファイルの内容が書かれます。.signature は signature ファイルで通常メールの最後には相手に誰からのメールが分かるようにつけるのが慣例になっています。

```

-----82-NI+trboc) 0 message (EEE+trh-e scan)--HI-----
To: etoh@cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
Subject: test

test

=====
佐賀大学情報処理センター
江藤 博文 etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
電話 0952-24-5191 内線 2594 事務室内線 2592
FAX 0952-26-6096
*****
-----Nthnart) (EEE+trh-e letter)--HI-----

```

2.3.3 "C-c C-w" 宛先をチェックする

"To:" や "Cc:" に書かれたアドレスのチェックを行いません。同じマシンであれば、ユーザの確認まで行ないませんが、他の場所へのチェックではマシン名程度しか分かりません。しかし、最初に書いたようにアドレスを間違えると多くの人に迷惑をかけるので、必ず実行するようにして下さい。間違っている場合は正しいアドレスに編集して下さい。

```

etoh@cc.saga-u.ac.jp... deliverable: mailer smtp, host sagaw, user etoh@cc.sag
a-u.ac.jp
etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp... deliverable: mailer local, user etoh

-----M-Header: "Mail Recipients" (EEE+Fundamental)--HI-----
To: etoh@cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
Subject: test

test

=====
佐賀大学情報処理センター
江藤 博文 etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
電話 0952-24-5191 内線 2594 事務室内線 2592
FAX 0952-26-6096
*****
-----Nthnart) (EEE+trh-e letter)--HI-----
Checking recipients...done

```

2.3.4 "C-c C-c" メールを出す

アドレスをチェックしたなら、

C-c C-c

でメールを出します。メールを出した後は

Sendig...done

と表示されメールが出されたことを表示します。

```

-----82-NI+trboc) 0 message (EEE+trh-e scan)--HI-----
Sending...done

```


2.4 メールの返事を出す

コマンド	内容
a	リプライモードに入る
C-c C-y	記事を引用する

メールをもらえば当然、その返事を出しますが、電子メールでも返事の手書き方法があります。

2.4.1 "a" リプライモードに入る

今読んでいる記事、もしくはカーソルのある行の記事に対して返事を書く時は、その状態で

a

でメールを出します。

```
1+ 03/07 etoh@cc.saga-u.ac test <<test
-----
Reply to whom:
```

Reply to whom:

と聞いてきます。ここでリターンだけ入力すると送り主だけに返事を出すことになります。また、

Replay to whom: all

と入力すると、送り主及び、"To:","Cc:" に書かれている全員に返事を出すことになります。当然、返事なのですから"From: " に書かれている人が

自動的に "To: "に移動し、"Subject: "には以前のメールのリプライであるので

Subject: Re: ??????

と表示されます。その他いろいろな情報がヘッダの部分に付けられます。ここでもメールを出した時と同様に "——"以下に本文を書きます。

```
To: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@cc.saga-u.ac.jp
Subject: test
Date: Tue, 07 Mar 1995 16:47:45 +0900
From: Hirofumi ETO <etoh@cc.saga-u.ac.jp>

test
-----
佐賀大学情報処理センター
江藤 博文 etoh@cc.saga-u.ac.jp
-----
To: Hirofumi ETO <etoh@cc.saga-u.ac.jp>
cc: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
Subject: Re: test
In-reply-to: Your message of "Tue, 07 Mar 1995 16:47:45 JST,"
<199503070747.0AA05303@hiko.cc.saga-u.ac.jp>

Composing a reply...done
```

2.4.2 "C-c C-y" 記事を引用する

返事を書く時に、相手の記事を引用することが出来ます。上記の リプライの準備が出来た時に

C-c C-y

と入力すると、相手の記事が引用されます。この時引用であることが分かるように行頭に ">" の印がつきます。また、ヘッダの情報も引用されるため先頭部分に見たことも無い情報がつきますが、この辺りは必要無いので削除しても良いでしょう。

```
To: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@cc.saga-u.ac.jp
Subject: test
Date: Tue, 07 Mar 1995 16:47:45 +0900
From: Hirofumi ETO <etoh@cc.saga-u.ac.jp>

test
=====
佐賀大学情報処理センター
江藤 博文 etoh@cc.saga-u.ac.jp
-----
To: Hirofumi ETO <etoh@cc.saga-u.ac.jp>
cc: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
Subject: Re: test
In-reply-to: Your message of "Tue, 07 Mar 1995 16:47:45 JST."
<199503070747.QAA05303@hiko.cc.saga-u.ac.jp>

> Received: from sagaw.cc.saga-u.ac.jp by jcc07.edu.cc.saga-u.ac.jp (8.8.10+2
> .4W/3.3W-jcc-EDU)
>> id QAA22071; Tue, 7 Mar 1995 16:46:28 +0900
>> Received: from hiko.cc.saga-u.ac.jp by sagaw.cc.saga-u.ac.jp (8.8.9+2.4W/
> 3.3W-sagaw)
```

引用した文に対して返事を書いたら、必要に応じてサインを付加し、

C-c C-w

でアドレスをチェックした後

C-c C-c

で出します。

2.5 メールを他の人に転送する

コマンド	内容
f	フォワードモードに入る

送られてきたメールを、送り主でなくだれか他の人に転送することが出来ます。

2.5.1 "f" フォワードモードに入る (forward)

今読んでいる記事、もしくはカーソルのある行の記事に対して返事を書く時は、その状態で

f

を入力して下さい。そうするとメールを出す時と同様に”To: ”,”Cc: ”を聞いてきます。メールを出す時と違うのは”Subject: ”を聞いてきません。”Subject: ”が自動的に付けられ、本文には自動的に記事が挿入されます。

```
To: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@cc.saga-u.ac.jp
Subject: [Hirofumi ETO: test]

----- Forwarded Message -----
Replied: Tue, 07 Mar 1995 16:57:01 +0900
Replied: "Hirofumi ETO <etoh@cc.saga-u.ac.jp> etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp"
Received: from sagaw.cc.saga-u.ac.jp by jcc07.edu.cc.saga-u.ac.jp (8.6.10+2.4W/3.3M9-jcc-EDU)
        id QAF22071; Tue, 7 Mar 1995 16:46:28 +0900
Received: from himiko.cc.saga-u.ac.jp by sagaw.cc.saga-u.ac.jp (8.6.9+2.4W/3.3M9-sagaw)
        id QAF27641; Tue, 7 Mar 1995 16:47:43 +0900
Received: (from etoh@localhost) by himiko.cc.saga-u.ac.jp (8.6.9+2.4W/3.3M9-himiko)
        id QAF05303; Tue, 7 Mar 1995 16:47:45 +0900
Message-Id: <199503070747.QAF05303@himiko.cc.saga-u.ac.jp>
To: etoh@edu.cc.saga-u.ac.jp
cc: etoh@cc.saga-u.ac.jp
Subject: test
Date: Tue, 07 Mar 1995 16:47:45 +0900
```

----- Forwarded Message

 フォワードメールの内容

----- End of Forwarded Message

後はこのフォワードメールに対してコメントを書くなりして、必要に応じてサインを付加し、

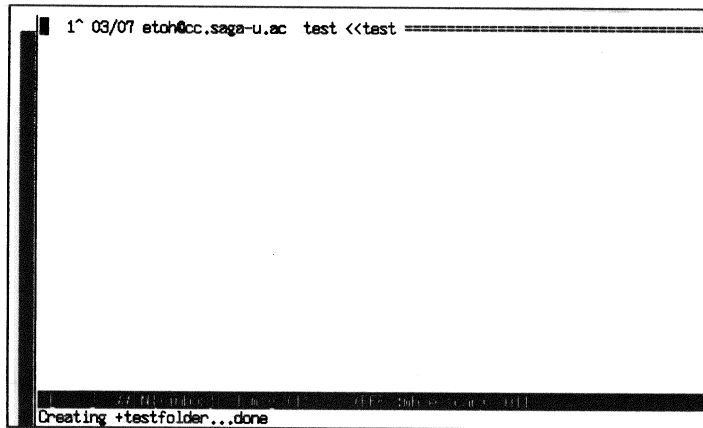
C-c C-w

でアドレスをチェックした後

C-c C-c

で出します。フォワードしたメールのメール番号の横に”F”がつきます。

```
1+F03/07 etoh@cc.saga-u.ac test <<test =====
[Empty body content]
Sending...done
```

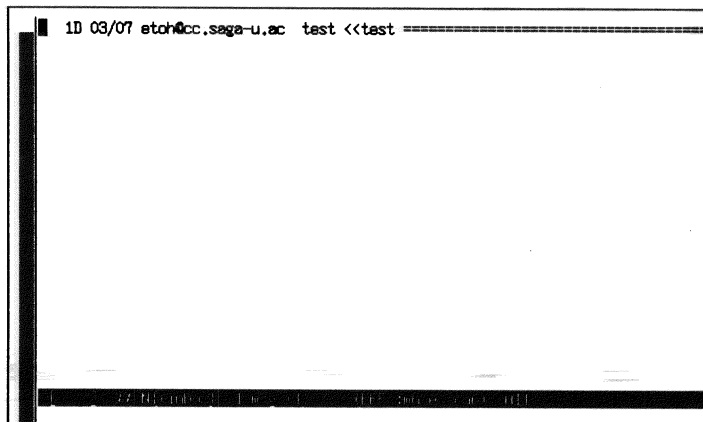



2.6.2 "d" 削除する

カーソルを削除したいメール番号のところに移動させ、

d

を入力します。メール番号の横に"D"が付きます。



2.6.3 "u" 印を取り消す

"~"、"d"でつけた印を取り消します。取り消したいメール番号にカーソルを移動させます。但し、"~"の場合はそのメール番号は飛び越してしまうので、この場合は"n"、"p"ではなく、"C-n"、"C-p"で操作をすれば強制的にカーソルを移動させることができます。そこで、

u

を入力すると取り消すことができます。

2.6.4 "x" 印を実行する

"~"、"d"で印がついたメールはまだフォルダに移動したり、削除はされていません。それを実行するために

x

を入力します。すると、印のついたメールは inbox から無くなり、フォルダに移動したり、削除されたりします。

2.7 フォルダの中身を見る

コマンド	内容
M-r	フォルダの中身を再検索する
M-f	指定するフォルダに移る
M-l	フォルダの一覧を表示する

フォルダの間を移動したり、一覧を表示したりします。

2.7.1 "M-r" フォルダの中身を再検索する

通常 mh-e を起動した場合、新着メールは表示されますが、以前から inbox にあるメールは表示されません。以前のメールを表示したい場合は

M-r

を入力すると以前のメールが表示されます。

2.7.2 "M-f" 指定するフォルダに移る

他のフォルダに移るには

M-f

と入力します。



Visit folder [+inbox]? +

と聞いてきますので、移動したいフォルダ名を入力して下さい。途中までの名前しか覚えてない場合は、分からなくなったところで {space} を入力すると補完されます。



Range [all]?

と、見たいメールの範囲を聞いてきます。そのままリターンキーだけだと、全ての範囲が表示されます。”1-5”と入力すると1~5のメールが表示されます。また、”last”と入力すると、最後のメールが表示されます。

2.7.3 ”M-l” フォルダの一覧を表示する。

今まで自分がどのようなフォルダを作成してきて、中にどれくらいのメールがあるかを表示します。

M-l

と入力すると画面が2分割され、下のウィンドウに一覧が表示されます。

```
1+ 03/07 etoh@cc.saga-u.ac test <<test =====
Folder # of messages (range) ; cur msg (other files)
88s122 has 6 messages (1- 6); cur= 4.
88s132 has 2 messages (1- 2); cur= 1.
90s102 has 2 messages (1- 2).
90s121 has 2 messages (1- 2); cur= 1.
90s123 has 9 messages (1- 9); cur= 1.
90s202 has 1 message (1- 1).
90s206 has 1 message (1- 1).
90s222 has 2 messages (1- 2); cur= 1.
90s234 has 3 messages (1- 3); cur= 1.
91s101 has 2 messages (1- 2); cur= 1.
listing folders...done
```

これを終了させるには

C-x 1

と入力して下さい。

3 トラブルシューティング

ここでは、良くありがちなミスを1問1答式の形で答えていきます。何か分からなくなったら読んで下さい。

Q1: i,a 等のコマンドを入力しても画面に文字が出力されるだけで、コマンドが実行されない。

A1: あやまって、q や b を押してしまい、mh-e を終了してしまっていると思われます。以下の mh-e の起動コマンドを再度入力して下さい。M-x mh-rmail M-x mh-smail

Q2: メールを書いている途中でメールを書くのをやめたい。

A2: 通常、メールを書いている途中でやめる場合は強制終了するか、自分宛に送る方法があります。C-x C-c で強制終了した場合は”draft” という名前で今まで書いていた内容がファイルに残ります。このファイルが存在すると、次回メールを出す時にファイルの中の文章を使用するかどうかをだずねて来ます。もし、2度と使用しない文章であれば emacs を終了した時点で消しておいても良いでしょう。

Q3: メールを読んだり書いたりしている途中で新着メールが来て、画面が乱れた。

A3: C-l で画面をきれいにします。このコマンドは UNIX のコマンドなので、メールに限らず、UNIX 上で作業をしている時にはいつでも有効です。また、新着メールのお知らせはいらぬと言う時は、biff n とコマンドラインから入力すればお知らせはしません。

Q4: 誤ってメールを消してしまった。

A4: すぐに emacs を終了し UNIX のコマンドに戻り、

```
cd Mail/inbox
```

を入力して下さい。ここにメールがあります。メールは対応する番号のファイルになっているのですが、mh-e 上で消されたファイルは”#”のついた番号ファイルになっているのでそれを”mv” コマンドで”#”をとった番号だけのファイルに書き換えます。そして

```
cd
mhe
M-x r
```

と入力すれば見えるはずですが。但し、あくまでもバックアップファイルが残っている場合に限るので、新しいメールで同じファイル番号を消した場合は先ほどの”#”のついたファイルに上書きされます。